

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2015 年 9 月 14 日提出

氏名	森田 智也
所属	獣医内科学教室
学年	D2
出張先	北里大学
出張期間	2015.9.7～9
目的	第 158 回日本獣医学会学術集会における発表

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

今回申請者は、北里大学獣医学部にて行われた第 158 回日本獣医学会学術集会に参加し発表を行ってきた。北里大学獣医学部は非常にきれいで広く学び舎としてとても魅力的な大学である印象を受けた。また大学病院の見学もさせていただき、日本には 2 台しかない核医学検査を行うことができる PET CT についての説明を受けることができた。価格の問題などがありまだまだ普及には時間がかかると思われるが、症例数を積み重ねているとのことであり今後の発展に期待したい。



図 1 : 学会ポスター

学会会場は 15 会場まであり、
非常に大規模な学会である。

本学会は、1 年に 1 度開催され申請者の参加することが多い小動物臨床獣医学会とは異なり、感染症、公衆衛生、解剖、実験動物など多岐にわたる分野の発表が行われる学会である。また小動物臨床分科会においても臨床例における診断や治療に関する発表と比較してより基礎的な知見に関する発表が大部分を占めていた。小動物臨床領域でその原因や治療法が明らかとなっていない疾患は多く存在し、その解明には基礎研究が必須である。今回学会において同分野で研究を行っている獣医師の成果を知ることができ、感銘を受けるとともに申請者自身の研究へのモチベーションが高まった。

申請者は学会 2 日目に一般公演、臨床分科会（小動物）のセッションにおいて発表を行った。発表演題は「心エコー図検査による右心機能指標と心臓カテーテル検査との関連：急性肺高血圧モデル犬を用いた検討」である。発表内容は申請者が博士課程の研究課題として行っている「犬における新たな右心機能評価指標の確立」の一部である。発表の概要としては、これまで右心室機能は過小評価されてきていたが近年右心機能不全が様々な疾患において予後不良因子であることや主に右心が影響を受ける肺高血圧症の重要性が明らかとなっており、右心機能評価への注目が高まっている。しかしこれまで心エコー図検査による右心機能評価は、右心室の複雑な構造などの要因により困難とされてきた。そこで人ではそれらに影響を受けない様々な心エコー図指標が用いられており予後や血行動態との関連が検討されている。しかし、犬においては同様の検討はなされていない。そのため今回実験的に急性肺高血圧症を引き起こしたモデル犬を用いて、侵襲的ではあるが正確に血行動態を評価可能な心臓カテーテル検査指標と心エコー図検査指標の関連を調べることで、心エコー図検査による右心評価指標がどのような血行動態を反映するかを検討した。今回測定した心エコー図指標のいくつかは、良好に血行動態の悪化を反映しており急性肺高血圧症における重症度評価に有用である可能性が示された。今後は臨床例を用いた検討のほか、慢性の肺高血圧症モデル犬を用いた検討を行い、さらなる有用性の検討を行っていく予定である。今後も研究の成果を発表することで獣医臨床が発展していくことができるよう邁進していく。

今回博士課程教育リーディングプログラム「One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」の助成により多くの研究者が参加する全国規模の学会において発表する機会を得て、自身の専門分野ではない領域の先生方の発表と聞き、ディスカッションすることで今までとは違った視点で自身の研究を見直すことができました。今後国際学会においても発表できるよう努力して行っていくつもりである。

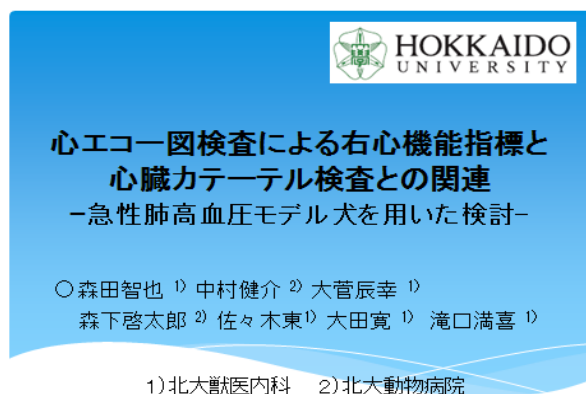


図 2：発表スライドの一部

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 獣医内科学教室・教授・滝口 満喜 印
---------	-----------------------------------

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp